

Tama Ritmo!

- 多摩のリズムで暮らそう！多摩のリズムを楽しもう！五感で楽しむ多摩の新しい自然体験-

Tama Ritmo!

Live in the rhythm of Tama

Tama Ritmo!

学生氏名¹⁾：山川大雅，佐藤史彬，宮腰裕

指導教員 梅澤佳子

所属先：多摩大学 経営情報学部 梅澤ゼミナール

キーワード：多摩丘陵，公園・緑地利活用, SDG's, 時間活用型余暇

はじめに-多摩地域の魅力について

多摩地域は、自然環境に恵まれた多摩丘陵に位置している。首都圏から20~40 km、鉄道を利用して30~40分程度と、マイクロツーリズムにおいても通勤圏としても便利なエリアである。「地震に関する地域危険度測定調査」においても総合危険度が低い地域である。近年、大規模な自然災害が頻発する日本において、遊びの場が生活圏に近く、「直ぐに戻れる距離」で行うマイクロツーリズムは、今後、大きな魅力となるだろう。

多摩・三浦丘陵においては、2006年より13自治体が連携した広域連携会議が継続的に開催されている。この会議は、地域の重要な緑と水景を「みどりのはつなぎ手」という共通認識に基づく環境保全と新たな commons の再生を目的とするものである。既に10のトレイルコースとウォーキングマップが紹介されている。また多摩地域の自治体、地域団体は多数の情報を発信している。

本研究は、既にある取り組み、既存の施設を十分に活かしながら、学生目線でみたアイデアにより多世代が楽しめる都市近郊ならではの時間活動型ができる自然環境を検討するものである。

1. 企画の背景

多摩在住の学生たちから「多摩地域に豊かな自然環境、広々とした公園は多いが、管理が行き届い

ていない。」「時間活用型の行動がとれる場所になっていない。」「BBQが出来るキャンプ場（大谷戸公園）もあるけれど汚くて使う気にならない。」等々といった意見が出され、外からは豊かな自然環境に見えるが、地域住民、利用者にとっては多くの課題があることが指摘された。

その一方で、アウトドアを楽しむチームメンバーからの意見として、ロードバイクでの旅、夜の公園散歩や夜の海の神秘的な美しさ、癒される環境、富山の豊かな自然環境体験など、楽しい体験が次々に出された。そのような話し合いから、都市郊外にある身近な自然環境をもっと活かし、ある物を活かし、公園をリノベーションして、豊かな自由時間を過ごすことができる環境をつくりたいということになった。

2. 企画内容

既存の緑地・公園のリノベーションによる利活用既存の緑地整備や都市基幹公園、大規模公園のリノベーションを行い、オーストリアの首都ウィーン郊外、イギリスの首都ロンドン郊外に見られるような、自然を散策し、自然の中で丸一日ゆったり過ごせる自然環境、小腹を満たせるようなキッチンカースペースなどを整備することを提案する。日本の場合、公園の利用方法について厳しい規制があるようである（今後の学び）。しかし、利用者の享受能力が高まるような利用方法ができるようにすることが必要であると考えます。

3. 森のテーマパークの整備の提案

豊かな自然環境の中で、文化（自然学習、音楽、

アートなど) も体験できる多世代が楽しめる「森のテーマパーク」を整備する。「森のテーマパーク」は、複数の自治体が連携しながら、しかし各地域の特徴を活かした「たまの森」、「いなぎの森」、「まちだの森」…と多摩エリア全体に広がる森のテーマパーク構想である。

本企画のコンセプトは、「ゆったりとした時間活用型の過ごし方(新しい自然体験)に適した環境整備」である。

4. 既存施設の利活用

拠点となる駅に共通の案内所を設置し、公園、自然環境、食事、温浴施設、宿泊施設などの情報提供、地場の食材等を購入できる売店、宅配、ロッカー、駐輪場、休憩スペース、更衣室などを整備する。

①温浴施設

多摩地域で経営している温浴施設を紹介する。

②サードプレイス

廃校となった公立小・中学校や利用されていない公共施設を活用。

参考資料・参考HP

- ・多摩・三浦丘陵のみどりと水景に関する広域連携会議 HP
- ・東京都公園協会 HP
- ・東京都都市整備局「地震に関する地域危険度測定調査 (第7回)」(2013年)